【第三種郵便物認可】
日本経済新聞 2015年(平成27年)11月27日(金曜日)

中国

企業・事業所ファイル

強さの秘密

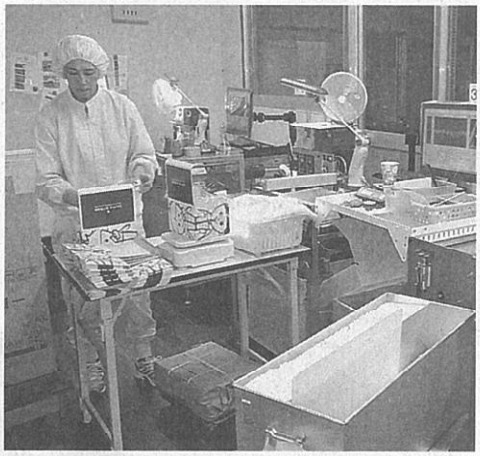
シバセ工業（岡山県浅口市）

工業ストローに活路

手術器具向けなど新用途

岡山県浅口市は国産ストローの発祥の地といわれており、現在でも一大生産地だ。ただ市場が変化して国産ストローの需要が減ったうえ、安価な輸入ストローが増加したことから廃業する企業も多い。同市に本社を置く老舗メーカー、シバセ工業は生き残りをかけ、工業用、医療用などストローの新たな用途を掘り起こし、需要の拡大を目指している。

同社がストローの製造を始めたのは1969年。当時、街には小さな喫茶店が多くあり、ストローがよく使われていた。瓶詰めの飲料も多く、ストローは必須。同社も大手飲料メーカーの下請けとして急成長した。



多品種少量生産に対応できる国産ストローの利点を生かす

▽本社＝岡山県浅口市鴨方町六条院中3037
▽社長＝磯田拓也氏
▽売上高＝2億7千万円（2015年3月期）
▽従業員＝30人

しかし90年代後半になると喫茶店が激減し、コーヒーやファストフードチェーン店が増加。大量に使われるストローは輸入品に置き換わった。競合他社が伸び縮みするストローを開発すると大手メーカーとの取引も消えた。売り上げも大幅に落ち込んだ。

下請けが続いた影響で営業も開発担当者もいないという会社存続の危機。磯田拓也社長が生き残りをかけて挑んだのが新しいストローの使い道の開拓だ。以前から飲料メーカー以外の企業から新しいストローの製作の要望があった。この需要を事業に結びつけた。

ストローは溶かした素材を押し出しながら、中の空気圧で成型していく。そのため一般的なパイプよりも自由に太さを調節できる。さらにストローは薄く、材料をあまり使わないため価格が安い。この利点を生かし、使い捨てることが多い部材にパイプの代用品として使ってもらえるようにした。

「他社からの依頼を通じてストローの可能性を知った」（磯田社長）。例えば医療用のカテーテルのカバー。手術中、医師はピンセットを使ってカバーを外すため、固くなく、かつ自然には外れないという絶妙な太さが求められる。衛生面から使い捨ての場合が多く、安く作る必要があるというのも特徴だ。「ストローならちょうどいいじゃないか」（磯田社長）。同様の理由で注射針や化粧筆のカバーにも使われるようになった。

アルコール検知装置に取り付けて使う短いストローの需要も増えている。飲酒運転の取り締まりの強化を受け、バスやタクシー会社からの注文が増えているという。

同社は飲料以外の用途に使うストローを「工業用ストロー」と呼ぶ。他社の目に付きやすくするためだ。「SEO（検索エンジン最適化）対策には力を入れている」（磯田社長）。工業用ストローで検索すると、検索結果の最上位に同社のホームページが表示される。新たなジャンルを作り、注目を集めやすくすることで同業他社より優位に立つ。

ようやく事業が軌道に乗ってきたことから、工業用ストローが会社の売り上げに占める割合を現在の15%から3分の1程度まで高める計画を立てている。

最近ではストローを加工して動物などを表現する「ストローアート」向けの商品を販売、作品を掲載するページも開設するなど特徴的な取り組みを進めている。今後もストローの新たな可能性の発掘に挑む。

（岡山支局　三木田悠）

支局☎
岡山 086-225-2071
福山 084-932-3145
広島 082-234-5555
山口 083-922-1167
松江 0852-21-2465
鳥取 0857-22-2198